

平成 27年 4月 9日 00216号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

窓ガラス越しのけいこ風景 ~事務室から~

新年度に入り、北見市武道館各道場の利用者さんは、今年度に計画されている各種大会やそれぞれの目標に向かっての稽古に余念がありません。北見市武道館は「開かれた



武道館」をコンセプトに建設設計なされました。



吹き抜けの広い空間に大きな窓枠、そのいたる所がガラスや透明なアクリル板で施され、何所からでも練習風景や試合の様子を見ることができます。今回は、窓ガラスを通した練習風景を色々な角度からご紹介していきます。また、武道館の安全管理上も大きな窓ガラスは生かされており、各道場の様子が具さにうかがい知ることができます。時には受付の窓口にも、可愛い来客をお迎えすることも多く、楽しく幸せな一時がなられます。(施設長)

連載 「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>

二、指導上に心得べきこと

○個性の尊重 2

こういう点では、昔の道場は、今日より優れていたようである。今日学校などでは、^{だんたいてき}団体的に教授することも行われているが、これも、事によっては必要なことで、またその特徴もたしかにある。しかし、^{てきせつ}真に適切な指導は、団体的な指導では出来ない。どうしても個人個人について、^{しん}真にその人の^{てんぷ}天賦を十分に発揮せしめるという事にしなければならない。此處に二つの例を挙げてみよう。修行者は多くの場合、次の何かに当てはまる。即ちその一つは、始めから本筋道を通る修行者で、他の一つは、始めは本筋でなくある時期になって本筋に入る人である。前者は始めから姿勢といい態度といい、また技といい、本筋で柔道の理に叶った練習をして上達する性質のものであり、後者は始めの間、力が主で、随分無理もあり、柔道の精神的の方面から見て^{ずいぶん}随分の欠陥もありがちであるが、一旦それを鍛えぬいて、ある時期に達すると、^{ほんぜん}豁然として本筋を発見し技術上の無理も癖もなくなり、精神的欠陥もなくなり、立派に道の体得者になるものである。つづく